

市民の声で動く市政をめざす、党派をこえた……

市民の共同か

保守の人も、無党派の人も、日本共産党も力あわせてがんばっています。



選択①市長

住民投票を敵視、市民無視の——

自^{の一部}と公の連合か

陣営の集会では……

- つくば市民の民意を敵視——「総合運動公園をつぶすという、前時代的な政治にあきれている」「こんなに醜いまちはない」「(負ければ)また世界に恥をさらす」(自民党県議・ひたちなか市)
- ムダづかいの古い政治に固執——「総合運動公園ができれば、国体のメインの競技場に」(自民党県議・ひたちなか市)「国策でつくったつくば研究学園都市、しっかりつくりましょうよ」(自民党県議・鉾田市)「外部から応援したい」(自民党衆院議員・筑西市)
- 市民の共同恐れ、デマで分断狙う——「共産党とつるんでいる議員は政治家失格」(後援会長)「共産市政にするわけにはいかない」(公明党県議・つくば市)

「共産党ダメ」とは、なんという古臭いセリフ…

自衛隊出身で自民党推薦の宮城県知事・村井嘉浩氏でさえ「共産党がついているほうがダメ、悪いというのは行きすぎた議論だ」(今年6月の記者会見)といっています。



カエルツクバの代表と日本共産党は、政治的な立場は違いますが、相手の立場を互いに尊重し合い、「市民第一の新しい市政」という点で力をあわせています。

議員を選ぶ「3つのモノサシ」

- ①市民が共同で市政を動かす流れを大事にする。
- ②市民の暮らし、子育て、福祉の願いにこたえてがんばる。
- ③つくばのまちとくらしのために、安倍政権の暴走政治と対決する。

日本共産党をのばすことが、「市民が主役」の新しい市政をつくる確かな力になります。

市政をカエル。みんなで行こう!

選択②議員